

授業概要

情操教育の様々な理論と方法を学びます。様々な教育思想家や芸術家、教育実践家に見る情操教育の理論と方法、実践とを、提唱者等の著述や論文を読み、学びます。文献を配布して概論を講義したのち、演習形式で、各自、分担して文献購読型の研究発表と討論を行います。

情操教育とかかわりの深い芸術教育・道徳教育・宗教教育をもふくめた文献から、教育思想における情操教育にとどまらず、民間の情操教育の実践者、芸術家の行った情操教育、実業家の構想した情操教育など多岐にわたり学びます。

授業計画

第 1 回	情操教育の定義と歴史概観
第 2 回	芸術教育と情操教育
第 3 回	道徳教育と情操教育
第 4 回	宗教教育と情操教育
第 5 回	大正期自由教育運動
第 6 回	モンテッソーリ
第 7 回	コダーイ
第 8 回	シュタイナー
第 9 回	鈴木三重吉
第 10 回	小原国芳
第 11 回	宮沢賢治
第 12 回	羽仁もと子
第 13 回	井深大
第 14 回	カール・ベッカー
第 15 回	学外施設見学（シュタイナー学校など）
第 16 回	総まとめ（期末レポート解説）

到達目標

- ①情操教育についての概論の指導の後、文献を細分化したものを履修者が分担して調査し研究発表を行い、情操教育に対する理解を深めることを目標とします。
- ②履修者の研究発表後の教員の指導や、他の学生の研究発表からも情操教育について広く学び理解を深めることを目標とします。
- ③施設見学においても、展示資料や実演等から領域「言葉」の児童文化財と言葉の発達の関係についての理解を深めることを目標とします。

履修上の注意

情操教育について興味をもち、文献や教育実践について学び、毎回、全員が分担して調査や考察をふくめた研究発表を行います。施設見学も行いますので、情操教育についての興味・関心を高めてください。施設見学は土日に授業を振り替えて行います。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

予習・復習

文献のそれぞれの担当部分について詳しく調べ、考え、他者の意見等も参考にまとめてレジュメを作成します。また、発表後の討論をまとめます。施設見学を行った際は、レポートを作成します。

評価方法

研究発表のレジュメと発表内容・他者の研究発表内容についての発言・コメント・期末試験（期末レポート）などを総合的に評価します。

期末試験（期末レポート）30%、課題 30%、学外施設見学レポート 20%、コメント用紙 10%、受講態度 10%

テキスト

毎回の授業で、次回の文献のプリントを配布します。